



富士通株式会社 代表取締役社長

# 山本正巳

やまもと まさみ

## PROFILE

昭和五十一年三月 九州大学工学部電気工学科卒業  
 昭和五十一年四月 富士通株式会社入社  
 平成十一年十二月 同社パーソナルビジネス本部  
 モバイルPC事業部長  
 同社パーソナルビジネス本部副本部長  
 同社経営執行役  
 平成十七年六月 同社経営執行役常務  
 平成十九年六月 同社経営執行役常務  
 平成二十一年一月 同社執行役員副社長  
 平成二十二年四月 同社執行役員社長  
 平成二十二年六月 同社代表取締役社長（現在に至る）

# 専門性を追求するだけでなく、幅広い分野に興味を持ってほしい

インタビューシリーズ

## 九大人

2011.6.2 interview



聞き手  
市瀬 亜衣

いちのせ あい

九州大学 21 世紀  
プログラム課程 3年

富士通株式会社代表取締役社長・山本正巳さんは、本学工学部のご出身です。社長就任は、平成22年4月。歴代の富士通社長では2番目に若い年齢で就任されました。富士通に入社以来、プロダクト事業に長年携わってこられた山本社長に、今回は、大学時代のお話から、現在のお仕事のことまで、21世紀プログラム課程の市瀬亜衣さんがお話を伺いました。

このインタビューは平成23年6月2日  
富士通株式会社本社にて行いました。

### 「情報通信業界の黎明期に「富士通」に入社

—どのような学生生活を送られていましたか。

山本 大学に入学した昭和47年は、沖縄がアメリカから返還された、日本にとってエポックメイキングな年だったんです。沖縄が返還されて喜ぶ人もいれば、日米関係の問題で米国に不満を持つ人もいて、学生運動の一つのきっかけとしてとも騒がれました。沖縄と九州は近いということもあって、学生組織の活動家が、全国から九州大学に集まって機動隊とぶつかっていました。私自身は、学生運動や政治に強い興味は持っていませんでしたが、六本松から天神までのデモに参加したこともありました。2年生の時は、国立大学の学費が値上げされることに反対した学生運動が起き、前期試験がなくなりました。私は進級できましたが、学年の半分くらいは留年しましたね。

—工学部のご出身ですが、学生の時からものづくりをされていたのですか。

山本 いいえ。在学中にもものづくりの経験はありませんでした。学生時代は旅行にもよく行っただし、仲間と麻雀なんかもして、まさに人生勉強をしてい

た感じですね(笑)。当時はそれだったり前だったのですが、今振り返るととても楽しい時代だったと思います。

—卒業後、富士通に入社された経緯をお聞かせいただけますか。

山本 昭和51年に卒業しましたが、この頃は石油ショックなど、いろいろと大変な時代でした。石油が高騰し海外から日本に入らなくなると、日本中がパニックになっていました。工学部の電気工学科だったので、就職は電力会社など電気エネルギー系を希望していたのですが、そんな状況ですから、経済も落ち込んでいて就職口がありませんでした。一方で、富士通のような情報の世界は、新しい産業だったこともあり募集が多くて「これから伸びる会社かもしれない」と、教授から薦められるままに富士通を受験しました。富士通は通信事業から始まった会社なのですが、当時は、社運を賭けて国産コンピュータの開発に乗り出していました。今のような知名度もなく、「富士通」という名前から通運事業の会社と間違えられたりしていました(笑)。

—入社されて、どのような業務に携われたのですか。

山本 その頃、コンピュータの世界は、コンピュータそのものを「本体」、プ

ログラムやデータを蓄えるファイル装置関連を「周辺」、情報を入力する装置を「端末」と呼んで、大きく3つのグループに分かれていました。私は端末のグループに入ってワープロの開発に従事しました。その後、パソコン、携帯、そしてサーバーの開発などに携わりました。

——学生時代に勉強されたことで、入社後に役立つことはありましたか。

山本 学生の時に富士通のコンピュータを触っていたので、コンピュータの簡単な動かし方くらいはわかっていました。でも、いろいろと勉強した理論的なことはあまり役に立ちませんでした。それより、勉強以外にも様々な経験を通して、新しいことに遭遇しても動じない強い心を養えたことが、社会に出て大いに役立ちましたね。

### 時代の変化に対応するには、「チャレンジ&スピード」

——とても変化の激しい時代ですが、変化に対応するために心掛けていらっしゃることは何でしょうか。

山本 ICT (Information and Communication Technology) の世界も非

です。そういう人と人のコミュニケーションは、社会に絶対必要ですからね。

### スピードを重視した決断。それが社長としての使命

——入社以来、主にプロダクトのマネジメントに関わって来られたようですが、社長に就任されて組織をマネジメントすることになった時、戸惑いなどはありませんでしたか。

山本 富士通の仕事は、主にプロダクト系とサービス系に分かれますが、その方法やマネジメントの仕方は変わりません。自分の仕事に責任を持って、新しいことにチャレンジすることが大切なのです。会社には、仕事をする上でベースとなる考え方があります。それが人によって違うようでは、逆に困ります。だから、マネジメントの対象が広がっても、戸惑うことはありませんでした。

——社長として心がけていらっしゃることはありますか。

山本 経営者であれば当然、社員が活き活きと働ける会社を目指します。社員が活き活きと働くためにも、しっかりと経営の道筋を立てなければなりません。社長になる前は、最終的な決断



常に変化の激しい世界です。パソコンや携帯などICTの世界が世の中をリードし、人間の生活様式をどんどん変えています。つまり、富士通は世の中をリードする業界にいるわけです。その動きにいち早く反応するには、「チャレンジ&スピード」。新しいことに挑戦し続けることが大切だと思います。また、インターネットの普及で世界がとて近くなっています。フェイスブックなどソーシャルメディアの普及により、日本で起きた事が一瞬で世界に広がる時代ですから、当然、私たちがグローバルを意識したビジネススタイルを考えています。

——何を基準に、新しくチャレンジすることを決定されているのですか。

山本 富士通は、昔から顧客第一主義です。ですから、常にお客様や社会の情報をウォッチして、今、何がお客様に求められているか研究し、新しい価値を提案しています。それが、富士通の「夢をかたちに」という言葉で表されるDNAなんです。また、昨年、「shaping tomorrow with you」というブランド・プロミスを制定しました。お客様とともに豊かな未来を創造するという意味です。富士通はこの様な「お客様起点」以外に「グローバル起点」「地

を誰かに委ねることができましたが、今はそういうわけにはいきません。常に、スピードを重視した決断が必要だと思っています。

——3月に起きた東日本大震災で、改めて考えられたことなどありますか。

山本 まずは、今回の震災で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。今回の震災の教訓は、私たちは日頃から地震や津波は来るものだと思うので、備えておくことが大切だということです。そのためには自然とうまく共生する方法を考えていくことが必要だと思えました。

### 日本をリードする人材を九州大学から輩出してほしい。

——九州大学や学生の皆さんにメッセージをお願いします。

山本 今の日本は元気がありません。日本が世界の中心的な役割を果たすようにならないといけないと思っています。当社が製造しているスーパーコンピュータも計算速度で世界一を目指しています。富士通の持つ力を、日本の活力にしたいと思っています。(※平成23年6月20日に計算速度で世界一を獲得)

球環境起点」という3つの経営起点を掲げ、常にチャレンジし続けています。——ICTで世の中がどのように変わると思われますか。

山本 例えば、富士通ですら九州で実証実験を行っている農業の事例があります。これまで農業は農家の方の勤やノウハウだけに支えられていました。しかし、これでは限界があります。センサーを使って日照時間や温度などの情報を収集し、熟練者のノウハウや農地管理手法をデータベース化することで、若手や農業初心者に情報を共有することが出来ます。この様にICTを使えば、農業を工業化することが出来るのです。また、医療においても、都心の大病院と地方の診療所をつなぐための遠隔医療も可能になります。他にも、高齢化社会問題や食糧問題、環境問題など世界中の社会問題を解決していくことが出来ます。そんな可能性が無限に広がっているんです。

——ICTが進化して、人間が置き去りにされるようなことはないですか。

山本 そんな心配はないですよ。ICTが進化して、情報のやり取りは速く、簡単になりましたが、顔を突き合せて得る情報は、情報の重要なファクター。九州という土地は、中国にも近く、将来、日本の中心となって社会を牽引する可能性だと思っています。そうなった時、九州大学、そして九州大学が輩出した人材が九州、そして日本をリードしてほしいですね。

今後は世界を相手に仕事をする機会も確実に増えます。学生の皆さんには外国のことを知ると同時に日本の文化も見直してほしいと思います。

少し話がそれますが、富士通の本社があるこの「汐留シテイセンター」には、全日空、三井化学という日本を代表する企業も入っています。たまたまですが、この3つの企業の社長が全員九州大学の出身なんです。同窓会を開いたりして交流を持っています。いずれもそれぞれの業界をリードする立場でがんばっています。ぜひ、今、九州大学で学んでいる学生さんの中からも、社会をリードする人材が育ってほしいですね。

とにかく、学生の皆さんは、在学中には専門性を追求するだけでなく、幅広い分野に興味を持ち、自分を徹底的に磨いてほしいと思います。もちろん人のために何ができるか考えることも重要ですが、まずは自分を徹底的に磨いてほしい。学生はそのくらいの気概を持っていいと思っています。